

## 研究会等の報告／予定

### 第 27 回 PF シンポジウム開催のお知らせ

PF シンポジウム実行委員長 五十嵐教之 (KEK・PF)

前号でもお知らせしました通り、第 27 回 PF シンポジウムは、2010 年 3 月 9 日 (火) ~ 10 日 (水) に開催されます。第 26 回と同様、エポカルでの開催となりますので、皆様奮ってのご参加を宜しくお願い致します。上記の期間は PF、PF-AR のユーザー運転を停止することになっておりますので、ご理解のほどお願い申し上げます。前日の 3 月 8 日 (月) には、ユーザーグループミーティングの開催をお願いしたいと思います。

実行委員は以下のメンバーが務めることになりました。参加申し込み方法、プログラム等を急ぎ詰めたいと思います。詳細が決まり次第ホームページや PF ニュースで皆様にお知らせ申し上げます。

PF シンポジウムに関してのお問い合わせは pf-sympo@pfiqst.kek.jp まで御連絡下さいますようお願い申し上げます。

#### 第 27 回 PF シンポジウム実行委員 (50 音順・敬省略) :

雨宮健太 (PF), ◎五十嵐教之 (PF), 奥田太一 (広島大放射光), 熊井玲児 (産総研), 栗栖源嗣 (阪大), 篠原裕也 (東大), 仁谷浩明 (PF), 野澤俊介 (PF), 兵藤一行 (PF), 宮内洋司 (PF) (◎委員長)

### 第 12 回 XAFS 討論会報告

弘前大学大学院理工学研究科 宮永崇史

第 12 回 XAFS 討論会は 2009 年 9 月 14 日から 3 日間、青森県南津軽郡大鰐町の国民宿舎「おおわに山荘」にて行われた。今回は XAFS 討論会としては初めて合宿型の会議となり、朝から晩 (あるいは早朝) まで、XAFS とその関連手法に関して議論を深める企画となった。都心から離れているうえに、交通の便が悪い山間の温泉地が会場であったが、71 名の参加があった。

初日はイタリア・トレント大学の P. Fornasini 氏の招待講演「Thermal Effect on EXAFS」から始まった。博士の長年の研究テーマである EXAFS の温度因子に関して理論から実験結果まで詳しく解説され、最近の氏の研究である負の熱膨張係数をもつ物質や温度因子における同位体効果にまで話が及んだ。その後は物理系材料への EXAFS・XANES の応用、および理論的研究の講演を中心に行われた。食事前には放射光施設のユーザーズミーティングが行われた。



ナイトセッション「XAFS は社会の要請に答えているか」

今回は PF と SPring-8 に限られたが、次回からはより幅広くミーティングを行う方向が確認された。入浴と食事の後、本討論会の目玉となったナイトセッション「XAFS は社会の要請に答えているか？」が催された。KEK-PF の野村昌治教授から日本の XAFS 研究を取り巻く状況が報告され、各地から持ち寄った地酒を楽しみながらの熱心な議論は尽きなかった。

2 日目の午前中は化学材料および触媒を中心とした発表が行われた。午後からは KEK-PF の雨宮健太氏の招待講演「深さ方向 XAFS 法：着想から実現、発展、そして将来へ」を中心に XMCD 法に関する発表が行われた。雨宮氏は深さ方向の研究の端緒から、どうやって様々な困難を克服してきたか、これまで公には話さなかったことまで含めた講演をされ、最後まで興味が尽きなかった。その後、同じ会場で 10 件のポスター発表が行われ、活発な議論が続いた。主催団体である日本 XAFS 研究会の総会が行われた後、いよいよ大広間での懇親会となる。懇親会では学生発表奨励賞の表彰が行われた。9 名の候補者の中から東京大学大学院の上村洋平氏の「時間分解 XAFS 法による白金 - すず合金ナノ粒子の合金形成過程及び酸化による再分散過程の in situ 構造解析」が奨励賞に選ばれ、朝倉清高会長より賞状および金一封が贈られた。その後、XAFS 討論会に初めての参加となる人から一言ずつスピーチをいただき、その日も前日に勝る活発な議論が夜更けまで続いた。

最終日は徳島大学の沼子千弥氏の招待講演「地球環境化学・材料工学分野への蛍光 XAFS の応用」を初めとして、蛍光 XAFS の応用および関連手法を中心に発表が行われた。沼子氏は材料開発の現場で XAFS がどのように役に立っているか、また生態・環境系などへの幅広い応用研究を紹介された。

3 日間を通しての非常に中身の濃い会議は、参加者に多少の疲労感を残しながら、立命館大学の稲田康宏さんを中心に行われる次回討論会での再会を約束して終了した。